

# 反骨の農民文学作家 農民解放運動家 山田多賀市(やまだたかいち) 堀金(ほりがね 三田 田尻) 出身

〈活躍した時代〉 1907年(明治40年)～1990年(平成2年) 享年82歳

明治40	大正3	昭和	平成2
小作農、市之助の長男として生まれる。異母弟四人とともに育つ。	堀金小学校入学。四年で中退。日雇い労働を転々とする。	3 伊那谷の建設現場をやめ山梨へ。 徴兵検査。第二乙種合格。徴兵されず。以後農民運動へ参加。 7 原稿を書きながら養鶏を始める。 15 作家、本庄睦男と知り合う。 16 「耕土」出版。「生活の仁義」発表。男誕生。「生活の仁義」発表。「耕土」出版。 18 中込暉子との婚姻届け。長男誕生。「生活の仁義」発表。 20 戦中、松根油の技師として働く。 21 送る。死亡診断書を故郷三田村に送る。 22 放)計18回の投獄経験。 24 その後、甲府警察の一斉検挙にも遭う。(45日目に釈放) 26 小説が反戦的だという理由で長野県警に検挙される。 40 「文化山梨」創刊。 44 「人間家畜」発表。 46 「農民文学」創刊。長女誕生。 49 「山梨時事新聞」の廃刊に反対運動。 52 「農草」出版。(全線文学賞) 62 「実録小説・北富士物語」出版。 82 「終焉の記」出版。 脳虚血のため死去。(享年)	



**全線文学賞受賞作品「雑草」**

小学校一年生のとき、優等生になつて両親や部落の人たちから大変ほめられたことは、今日まで誉められたことはなんにもありません。(中略)

青年期は、農民運動をやつて、ブタ箱にばかり入れられました。し、小説を書いて芥川賞候補になつたのはよいが、そのために長野の警察まで連行されて叱られた。「耕土」を書いて三年後にのブタ箱に叩き込まれました。(中略)

しかし、「雑草」が受賞したという事は、叱られどうしの一生涯だったが、「私の生き方も、けつして無駄ではなかったのだ」という確証を得たのです。

貧乏小作人「健助」を描いた自伝小説



アルプス山麓の生家堀金 田尻 安曇野を隔て美ヶ原を望む

第16回芥川賞候補作品「生活の仁義」も奴婢文学の一つである。



**奴婢文学(奴婢を主人公とした一連の作品)**

「人間家畜―本朝奴隷物語―」より

「そう、戦地に行ったら長者を殺してしまえ。長者様が死ねば、大手をふって戦地から帰ってこれる。主人のなくなった奴婢は、みんなが放されるのじゃ」

「それより他に方はないのか」

「さいるか。あるものか。俺ら奴婢は、主人に殺されるか。主人を殺すか。そのどっちかしかない。」

以下略

**～生涯を貫く反骨精神～**

農民運動や反戦運動で留置場に入れられていた多賀市は、戸籍を自ら消すことを思いついた。銃殺刑を覚悟しての反戦行動だった。1943年、友人の医師に死亡診断書をもらい、肺結核で死亡したと記入し、故郷の三田村に郵送した。役場からは火葬儀証明書、埋葬証明を送れといってきたのだが、その後の甲府空襲を経て受理されることになった。平成2年、多賀市が本当に死亡したときに、妻をはじめ家族は裁判所に行くなどして処理が大変だったという。

- 農民文学の担い手
  - ・農民の生活を描いた小説「耕土」は長塚節「土」、和田伝「沃土」と並んで「日本農民文学土三部作」と呼ばれている。
  - ・日本農民組合青年部員として農民解放運動に参加活躍。
  - ・農業技術雑誌「農業と文化」「農政と技術」「農民文学」を発行し、編集長を10年間務めた。
- 作家たちとの出会い ～プロレタリア作家の流れを汲んで～
  - ・プロレタリア作家の本庄睦男(1905～39)を通して、多賀市は開眼。「古今東西の万巻の書を読み、自分の背丈くらい原稿用紙を書いてみる」ことを本庄から指導された。師である本庄も弾圧を受け、ともに結核に苦しんだ。
  - ・プロレタリア作家、葉山嘉樹(1894～1945)の影響。伊那谷の発電工場で働いていた多賀市は帳付けをしていた葉山と出会い、影響を受けたといわれている。小説「雑草」に葉山は登場する。しかし、働いていた期間が合わないという研究者の指摘があり、実際に労働をともにしたかは未詳。

【参考文献】  
 コラム 『反骨の農民文学作家山田多賀市のこと』『シリーズ安曇野の先覚者 山田多賀市』橋渡  
 『安曇野文芸』35号 山田多賀市文学を尋ねる 中島博昭  
 「安曇野を去った男」三島利徳 「実録小説 北富士物語」 山田多賀市  
 「終焉の記」山田多賀市 ホームページ「安曇野市ゆかりの先人たち」